



▶ 主な内容

P1…救急車の適正利用、消防白書

P2-3…市立病院だより「きらり」

P4…伊賀地域救急輪番表(2月)、ひまわり

平成22年 名張市 消防白書



救急
・
救助

救急搬送人員は前年比93人増

平成22年中の救急出動件数は2,949件(前年比+95件)。1日あたり、平均8件救急出動したことになります。搬送人員は全体で2,838人(前年比+93人)となりました。

事故種別ごとの救急出動件数は、急病が1,907件と最も多く、次いで一般負傷の371件、交通事故の299件となっています。

一方、平成22年中の救助出動は27件(前年比-12件)で、13人を救助しました。

救急出動状況

種別	急病	一般負傷	交通事故	その他	合計
出動件数	1,907件	371件	299件	372件	2,949件
搬送人員	1,793人	357人	339人	349人	2,838人

※その他とは転院搬送、労働災害などです。

救助出動状況

種別	火災	水難事故	自然災害	交通事故	その他	合計
出動件数	0件	3件	0件	14件	10件	27件
救助人員	0人	0人	0人	7人	6人	13人

※その他とは機械による事故、自損行為などです。

☎ 名張消防署 ☎ 63-0999



火災

「こんろ」による火災が6件でトップ

火災発生状況

建物火災	林野火災	車両火災	その他火災	合計
16件	0件	4件	3件	23件

※その他火災とは、空き地や田畑などで発生した火災です。

市内では、平成22年中に23件(前年比+5件)の火災が発生しました。「建物火災」が最も多く、16件となり、うち「住宅火災」が11件と非常に高い割合を占めています。

原因別にみると、「こんろ」による火災が6件で最も多く、住宅火災の半数以上は「こんろ」が原因となっています。

火災による死者は1人、負傷者は2人。火災による年間の損害額は692万3,000円となりました。

☎ 消防本部予防室 ☎ 63-1412



救急車は次のような場合に呼んでください

- (1) 意識がない(呼びかけ、体に触れても気がつかない)
- (2) 胸や呼吸が苦しい(急な胸の痛み、呼吸困難)
- (3) 頭痛が激しい(経験したことのない激しい痛み)
- (4) 動き・話しぶりが(身体の麻痺や言語障害がある)

※その他、ケガによる多量出血、骨折、やけど、普段と様子が違う、体を動かせず救急車以外で搬送できないなどの場合



増加する救急搬送人員

市内の救急搬送人員は年々増加傾向にあり、ここ10年で700人以上増えています。また、救急輸番体制の下、搬送距離・時間が延びている状況です。

そんな中、市消防本部では、一人でも多くの命を救うために、医師の指示の下、高度な救急救命措置を行える救急救命士を計画的に養成し、その活動に必要な資機材を装備した高規格救急車を配備しています。

一方、昨年、救急搬送された人の半数以上が、入院の必要のない「軽症者」でした。市消防本部では4台の高規格救急車を運用していますが、全て出動してしまうこともあります。「救急車で行けばすぐに診てもらえるだろう」といった安易な救急車の利用が重なれば、生命の危険がある重症患者を待たせてしまう恐れがあります。さらに、安易に二次救急にかかると、医師の負担にもつながり、伊賀地域の二次救急医療体制を危うくさせてしまいます。

☎ 消防本部消防救急室 ☎ 63-5990

救急車の適正利用に、ご協力をお願いします

昨年中は、名張市民の29人に1人を救急搬送